

# たかはら

医療法人たかはら会

地域連携室 NEWS

Vol.1

2016年11月



「生きる」ことを支えること、  
それが私たちの仕事です。

医療法人社団たかはら会  
理事長

尾形 新一郎

## 理事長あいさつ

早いもので、開業してから今年で25年を迎え、お陰様で現在では医療法人社団たかはら会として、居宅系や通所系など複数の介護施設を擁するようになりました。そこでこの度、地域の皆様へ、よりきめ細やかな医療・介護サービスを提供していくために、医院内に「地域連携室」というものを設置いたしました。これは、各施設のご案内、ご説明はもとより、専門のスタッフが皆様と一緒に、医療や介護の心配や不安を解決していくためのものです。何なりとご相談していただき、多くの皆様が最善の医療・介護サービスを享受できますことを心より願っております。

### ■ いつも患者さんと同じ目線で

祖父は宇都宮陸軍病院で軍医をしていました。「昔の医者」という感じで、とても頑固でしたが、何事にも一生懸命に取り組む祖父の姿を見ているうちに、気がついたら自分も医師への道を歩み始めていました。

大学卒業後に数年間派遣として、県内のある病院の再建に携わったことがあります。多くのスタッフが辞めていく中で、残ったスタッフ達と必死に診療を続けました。その時の経験がおそらく今の僕に大きく影響していると思います。若い頃は「コンペイトウ」と周囲から呼ばれるほど尖っていましたが、そこで

いろいろな人と関わっていくうちに、そもそも医療とは何か、という基本を学んだように思います。

スタッフにいつもお願いしていることが1つあります。「患者さんや利用者さんは弱い立場だから、常にその方達と同じ目線で話をしてください。お年寄りや自分のお父さんやお母さんだと思って接してください。」と。あたり前のようですが、忙しさにかまけているとつい忘れがちです。しかし、そこに医療や介護サービスの原点があるわけですから、それは決してないがしろにしてはいけないのです。

30代半ばで独立して尾形医院を開業しました。当初10年間は外科医として胃がんや胆石などの外科手術も診療所で行っていましたが、大病院と比べるとどうしても術後管理などで限界を感じていました。その頃、介護保険制度がスタートして、塩谷町からも介護施設をやりませんかという話があり、この塩谷町には色々な施設が足りないということが分かってきたので、それならばと介護事業を始めることになったわけです。

### ■ つねに「心」に寄り添いながら

誰もが歳をとり、いつかは老後を迎えるわけですが、その人生の終末期に携わる仕事が、まさにわれわれの医療・介護サービスです。そこで大切なことは、常に患者さんや利用者さんの「心」に寄り添うということです。人それぞれにいろいろな人生があるわけで、その人なりの人生観に基づいたケアができればと



考えています。

さらに言えば、私たちが診ている方、私たちの施設を利用されている方の多くは「生きている」というよりは、どうしても「生かされている」という状態になりがちです。それをどうにか「自分で生きている」と思えるようにしたいとも思っています。

## ■ 患者さんにご家族の思いのかけはしに

この地域でも在宅での看取りを希望する方が増えてきています。実際に在宅で看るとはいっても、最後に家族ではどうにもならなくなって病院に連れてきたり、救急車を呼んだりというケースがありますが、在宅介護についてもしっかりとサポートしていきたいと考えています。

在宅での介護はご家族にとっても難しい一面がありますが、それでも畳の上で、家族の中で最期を迎えられることに対して感謝されることは多いですね。ご家族もきっと亡くなられるご本人と思いを共有できる場所があるからなのでしょう。

最近のことですが、在宅で看取らせていただいた患者さんは、もう延命は望まないとご本人が意思表示をされて、それをご家族が受け入れたがん末期の方でした。訪問看護ステーションのスタッフがサポートし、チームとしてしっかりと支えて最期を迎

える準備をさせていただきました。

現在塩谷町では、この地域の医療を担う5つの医療機関がしっかりと手を組み、それぞれの機能を補い合うというチームでのシステムも整えています。その意味で塩谷町は在宅医療・介護連携の先進地域といえるでしょう。

## ■ この町の未来に向けて

今は家族そのものが核家族化して小さくなり、独居老人や老々介護などが社会問題となっています。そういう状況の中で、在宅医療を含めた医療・介護システムの構築は急務とも言えます。ある意味これからは、地域社会が「大きな家族」のような役割を果たしていくようになるのかもしれない。

ある部分では個々の家族で対応し、またある部分では地域社会という「大きな家族」の中で頼らざるをえない。そういう風になっていくのかもしれない。

医療に携わる者として、また地域社会の一員として、どのように活動することが人々の幸せに繋がっていくのかということを考えていきたいと思っています。

また医療・介護はこの地域の大きな産業になるとも考えています。塩谷町にいらした方が「最後までこの町に住んでいたい」と思えるような町にしたいですね。高齢者に限らず、様々な人に来ていただきたいですし、医療・介護は若い人たちの働く場にもなります。そのためには塩谷町の素晴らしいところをもっと情報発信していかなければならないと考えています。

これからもこの町のホームドクターとして皆様に安心して生活していただけるよう、より良い医療と介護の環境を整備していくつもりですので、何卒よろしく願い申し上げます。

### 【編集後記】

このたび、地域の皆様に医療・介護のサービスをより身近に、そしてよりスムーズに活用していただくために、新たに院内に「地域連携室」を発足致しました。

地域連携室では専門のスタッフが、塩谷町内外の様々な医療機関と連携を取りながら、患者さんやご家族の皆様の不安や心配を一緒に考え、解決していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

室長 小川

医療法人社団たかはら会  
尾形医院 地域連携室

担当：小川 / 伴

〒329-2221

栃木県塩谷郡塩谷町大字玉生 570-1

TEL : 0287 (45) 2231

FAX : 0287 (45) 2223